

平成13年度財団法人国際エメックスセンター事業報告書

1. 外務省・環境省の共管法人化のための「寄付行為」の改正

当センターは、閉鎖性海域の環境保全に関する調査及び研究の実施、国際シンポジウムの開催、エメックス会議の開催及び閉鎖性海域環境管理技術研修等を通じ、閉鎖性海域の環境保全と適正な利用の推進のため、平成12年4月に環境省（旧環境庁）認可の財団法人として設立された。

しかし、センターが、閉鎖性海域の環境保全に関する課題を、よりグローバルな視点に立って解決していくために、今後外務省の支援、指導、関与も新たに受けつつ国連環境計画等国际機関等との連携を強化し、多種多様なネットワークの構築と拡充に努めていく必要があるとの認識から、理事会、評議員会の議決を得て「寄付行為」の事業目的の追加・閉鎖性海域の環境の保全・創造に関する国際機関等の活動に対する協力と連携・等の改正を外務省・環境省に提出した。

平成13年5月7日付けで外務大臣、環境大臣からかかる変更について認可を受け、平成13年度からこれまでの環境省所管に加え、新たに外務省所管の共管法人として活動することとなった。

2 一般事項

(1) 理事会の開催

ア 第4回理事会

開催年月日 平成13年6月7日（木）

開催場所 神戸市中央区 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・報告事項 寄付行為の変更認可による外務省と環境省との共管化について

・議案

議案第1号 平成12年度事業報告及び収支決算報告に関する件

議案第2号 平成13年度事業計画及び収支予算の補正に関する件

議案第3号 評議員の補欠・追加選任に関する件

議案第4号 財団法人国際エメックスセンター組織及び職制等に関する規程の変更に関する件

議案第5号 財団法人国際エメックスセンター長期事業プランの作成に関する件

イ 第5回理事会

開催年月日 平成13年9月17日（月）

開催場所 神戸市中央区 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 理事長の選任に関する件

議案第2号 平成13年度事業計画の変更に関する件

議案第3号 平成13年度収支予算の補正に関する件

- 議案第 4 号 評議員の補欠選任に関する件
- ・ 報告事項
 - 報告第 1 号 第 5 回世界閉鎖性海域環境保全会議の準備状況に関する件
 - 報告第 2 号 第 6 回世界閉鎖性海域環境保全会議準備に関する件

ウ 第 6 回理事会

開催年月日 平成 1 4 年 3 月 2 7 日 (水)
開催場所 神戸市中央区 兵庫県公館 第 2 会議室
議案等

- ・ 議案
 - 議案第 1 号 平成 1 3 年度事業計画書の変更に関する件
 - 議案第 2 号 平成 1 3 年度収支予算書の変更に関する件
 - 議案第 3 号 平成 1 4 年度事業計画 (案) に関する件
 - 議案第 4 号 平成 1 4 年度収支予算 (案) に関する件
 - 議案第 5 号 任期満了に伴う評議員の改選に関する件
 - 議案第 6 号 顧問の選任に関する件
 - 議案第 7 号 就業規程等の一部改正に関する件
- ・ 報告事項 第 6 回世界閉鎖性海域環境保全会議 (EMECs 2003) について

(2) 評議員会の開催

ア 第 3 回評議員会

開催年月日 平成 1 3 年 6 月 7 日 (木)
開催場所 神戸市中央区 兵庫県公館 第 2 会議室
議案等

- ・ 報告事項 寄付行為の変更認可による外務省と環境省との共管化について
- ・ 議案
 - 議案第 1 号 平成 1 2 年度事業報告及び収支決算報告に関する件
 - 議案第 2 号 平成 1 3 年度事業計画及び収支予算の補正に関する件
 - 議案第 3 号 財団法人国際エメックスセンター長期事業プランの作成に関する件

イ 第 4 回評議員会

開催年月日 平成 1 3 年 9 月 1 7 日 (月)
開催場所 神戸市中央区 兵庫県公館 第 2 会議室
議案等

- ・ 議案
 - 議案第 1 号 平成 1 3 年度事業計画の変更に関する件
 - 議案第 2 号 平成 1 3 年度収支予算の補正に関する件
 - 議案第 3 号 理事の補欠選任に関する件
 - 議案第 4 号 監事の補欠選任に関する件
- ・ 報告事項
 - 報告第 1 号 第 5 回世界閉鎖性海域環境保全会議の準備状況に関する件
 - 報告第 2 号 第 6 回世界閉鎖性海域環境保全会議準備に関する件

ウ 第5回評議員会

開催年月日 平成14年3月27日(水)

開催場所 神戸市中央区 兵庫県公館 第2会議室

議案等

・議案

議案第1号 平成13年度事業計画書の変更に関する件

議案第2号 平成13年度収支予算書の変更に関する件

議案第3号 平成14年度事業計画(案)に関する件

議案第4号 平成14年度収支予算(案)に関する件

議案第5号 任期満了に伴う理事・監事の改選に関する件

・報告事項 第6回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2003)について

(3) 科学・政策委員会の開催

ア 第2回科学・政策委員会

開催年月日 平成13年6月14日(木)

開催場所 神戸市中央区 国際健康開発センター国際交流ホール

議題等

財団法人国際エメックスセンターの寄付行為の改正について

第5回エメックス会議(EMECS2001)について

a 第2回アナウンスメントについて

b プログラムの全体構成について

c 特別セッションについて

d サイドプログラムについて

e 発表要旨の選定について

f 今後スケジュールについて

第6回エメックス会議について

財団法人国際エメックスセンターの今年度事業について

財団法人国際エメックスセンターの今後事業に対する提案について

財団法人国際エメックスセンター長期事業プラン(草案)の作成について

イ 第3回科学・政策委員会及びEMECS2001コーディネーター等連絡会

開催年月日 平成13年11月18日(日)

開催場所 神戸市中央区 ポトピアホテル 北野の間

科学・政策委員会議題

財団法人国際エメックスセンター長期事業プラン(草案)の作成について

第6回エメックス会議について

EMECS2001コーディネーター等連絡会議議題

EMECS2001 第3回アナウンスメント(プログラム)について

全体プログラムと各準備会合について

コーディネーター等の位置づけと役割について

神戸・淡路宣言の起草と採択について

ベストポスター賞選定について

論文編集委員会について

3 事業の実施

(1) 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 海藻類を用いた沿岸域生態系の中・長期モニタリング手法検討調査（関西電力㈱委託事業）

沿岸生態系の中・長期的な変化を明らかにするためのモニタリング対象として海藻類を用いることの利点と問題点について、他の生物群（動物・植物プランクトン、底生動物、魚類など）を対象とした場合との比較を通して検証する必要がある。

そこで、神戸大学内海機能教育研究センターと共同で調査（モニタリング）対象種の選定、モニタリング地点（海域）とモニタリング頻度の検討を「海藻類を用いた沿岸域生態系の中・長期モニタリング手法の標準化に関する調査ワーキング」の開催などを通じて

- ・過去の類似調査事例のサーベイ
- ・モニタリング手法の検討
- ・調査マニュアル、生物同定補助資料の作成

の調査を行った。

海藻類を用いた沿岸域生態系の中・長期モニタリング手法の標準化に関する調査ワーキングの開催

- a テーマ 海藻類を用いた沿岸域生態系の中・長期モニタリング手法の標準化に関する検討調査の進め方とその調査体制
- b 開催日 平成13年7月5日（木）
- c 場所 神戸市中央区 国際健康開発センター セミナール-43
- d 出席委員 川井 浩史 神戸大学内海機能教育研究センター教授
太田 雅隆 財団法人海洋生物環境研究所研究参事

イ 尼崎21世紀の森構想（仮称）プラン策定調査（兵庫県企業庁委託事業）

兵庫県では産業構造の変化等により工場跡地等の遊休地化が進む国道43号線以南の尼崎臨海地域において、「環境の世紀」といわれる21世紀の新たなまちづくりの方向として、新たな環境創造と都市の再生をめざす先導的プロジェクトである「尼崎21世紀の森構想」を策定するため、「尼崎21世紀の森構想策定懇話会」を設置し具体的検討を行った。

当センターでは兵庫県企業庁から委託を受け、この検討に資するため開催された尼崎21世紀の森構想策定懇話会での検討資料の作成、視察調査団（欧州）への派遣、市民フォーラムの開催などを行いその成果を報告書にとりまとめた。

尼崎21世紀の森構想策定懇話会（委員会・専門部会）の構成メンバーと開催経過

- a 尼崎21世紀の森構想策定懇話会構成メンバー

（委員会）

- 委員長 伊藤 滋 早稲田大学教授、アジア防災センター長
- 委員 安田 丑作 神戸大学教授
- 委員 森 昭夫 （財）地球環境戦略研究機関理事長
- 委員 盛岡 通 大阪大学教授

委員	熊谷	洋一	東京大学教授、淡路景観園芸学校学校長
委員	中瀬	勲	姫路工業大学教授
委員	永田	萌	絵本作家、兵庫県教育委員会委員
委員	加藤	恵正	神戸商科大学教授
委員	宮田	良雄	尼崎市長

(専門部会)

部会長	盛岡	通	大阪大学教授
委員	安田	丑作	神戸大学教授
委員	中瀬	勲	姫路工業大学教授
委員	加藤	恵正	神戸商科大学教授
委員	宮前	保子	京都造形芸術大学助教授
委員	篠崎	由紀子	(株)都市生活研究所所長
委員	鳥越	皓之	筑波大学教授
委員	林	まゆみ	姫路工業大学助手
委員	森本	章夫	神戸新聞社論説副委員長
委員	堀内	弘和	尼崎市助役
委員	牛戸	陽治	神戸大学大学院学生
委員	今鷹	栄子	尼崎花のまち委員会代表
委員	植木	久一	環境NGP「あまがさき環境塾・タンポポ」会長
委員	中川	日出和	尼崎市社会福祉協議会代表
委員	田中	一家	尼崎商工会議所副会頭
委員	田辺	勝弘	関西電力(株)総務室用地計画グループチーフマネージャー
委員	弘中	幸次郎	(株)クボタ業務部長

(オブザーバー)

小林	正明	環境省総合環境政策局環境影響評価課長
柴垣	泰介	〃 環境管理局水環境部閉鎖性海域対策室長
佐野	正道	近畿地方整備局企画部長
菱田	一	〃 建政部長
川島	茂樹	〃 道路部長
福田	幸司	〃 港湾空港部長
陣山	繁紀	近畿経済産業局産業企画部長
水本	良則	環境事業団環境緑地事業部長
姉齒	道信	都市基盤整備公団関西支社総合企画室長

b 尼崎21世紀の森構想策定懇話会の開催経過

・ 第1回委員会・専門部会合同懇話会

開催年月日 平成13年5月7日(月)

開催場所 神戸市中央区 兵庫県公館

検討内容

- ・ 尼崎21世紀の森構想の趣旨と進め方
- ・ 尼崎臨海地域の現状と課題及びまちづくりの方向性
- ・ その他

・第2回専門部会

開催年月日 平成13年7月10日(火)

開催場所 尼崎市 尼崎サチ・インキュベーションセンター会議室

- 検討内容
- ・ 構想策定のスケジュール
 - ・ 構想のねらいとまちづくり
 - ・ 森の空間イメージ
 - ・ その他

・第3回専門部会

開催年月日 平成13年8月21日(火)

開催場所 尼崎市 中小企業センター会議室

- 検討内容
- ・ 構想のねらいとまちづくり
 - ・ まちづくりの展開イメージ
 - ・ 拠点開発地区の整備イメージと段階的整備
 - ・ その他

・第2回委員会

開催年月日 平成13年9月26日(水)

開催場所 神戸市中央区 国際健康開発センター8階第2会議室

- 検討内容
- ・ 懇話会開催スケジュールについて
 - ・ 専門部会等の検討内容について
 - ・ 今後の検討事項について
 - ・ その他

・第3回委員会・第4回専門部会合同懇話会

開催年月日 平成13年11月6日(火)

開催場所 神戸市中央区 兵庫農業共済会館7階大会議室

- 検討内容
- ・ 尼崎21世紀の森構想中間とりまとめについて
 - ・ 今後の検討事項について
 - ・ その他

・第5回専門部会

開催年月日 平成13年12月26日(水)

開催場所 神戸市中央区 兵庫県農業共済会館7階大会議室

- 検討内容
- ・ 前回懇話会意見の対応方針について
 - ・ 市民アンケート調査結果について
 - ・ 尼崎21世紀の森構想の事業推進方策
 - ・ その他

・第6回専門部会

開催年月日 平成14年2月14日(木)

開催場所 神戸市中央区 兵庫県農業共済会館7階大会議室

- 検討内容
- ・ 尼崎21世紀の森構想のとりまとめについて
 - ・ その他

・第4回委員会

- 開催年月日 平成14年3月8日(金) 13:30~16:00
開催場所 神戸市中央区 兵庫県不動産会館7階研修ホール
検討内容 ・尼崎21世紀の森構想のとりまとめについて
・その他

尼崎21世紀の森構想視察調査団(欧州)への派遣

- a 派遣期間 平成13年6月19日(火)~6月29日(金)
b 派遣者 ・尼崎21世紀森構想懇話会専門部会委員
盛岡 通 大阪大学教授
篠崎 由紀子 (株)都市生活研究所所長
・財団法人国際エメックスセンター -
専務理事 中嶋邦弘
c 視察先 ドイツ(デュッセルドルフ、フライブルグ)及びイタリア(ミラノ、ベニス、ラベンナ)

市民フォーラムの開催

- a 開催日時:平成13年9月3日(月) 13:30~16:00
b 開催場所:尼崎市総合文化センター アルカイクホール・ミニ
c 参加人数:約300人
b プログラム:
あいさつ 井戸 敏三 (兵庫県知事)
基調講演 ・「尼崎と森」
貝原 俊民 ((財)兵庫地域政策研究機構)
・「あまがさきの森づくりへの期待」
篠崎 由紀子(株式会社 都市生活研究所所長)
パネルディスカッション:【テーマ:都市再生と尼崎21世紀の森構想】
コーディネーター:盛岡 通 (大阪大学教授)
パネラー :植木 久一 (環境NGO「あまがさき環境塾・たんぼぼ」代表)
加藤 恵正 (神戸商科大学教授)
篠崎 由紀子((株)都市生活研究所所長)
中瀬 勲 (姫路工業大学教授)
堀内 弘和 (尼崎市助役)

市民・企業アンケートの実施

- a 実施時期:平成13年8月~9月
b 配布対象:尼崎市域の市民・企業
b 配布数:6647
c 回収数:2925
d 回収率:39.8%

尼崎21世紀森構想ホームページ(<http://www.emecs.or.jp/morikoso/>)の開設

- a 平成13年5月10日から公開開始
b 平成14年3月20日現在のアクセス数は約7,860件

尼崎 21 世紀森構想にかかるパブリックコメントの収集・整理

a コメント数：33 件（メール、FAX、郵便など）

尼崎 21 世紀森構想検討調査報告書の作成

・報告書の構成

第1章 尼崎 21 世紀の森構想の趣旨

第2章 大阪湾ベイエリアと尼崎臨海地域の現状と課題

第3章 尼崎 21 世紀の森構想の方向性と将来像

第4章 まちづくりの展開方向

第5章 段階的整備

第6章 事業化推進方策

第7章 まとめ

ウ 臨海部における環境回復・創造方策に関する調査・研究（閉鎖性海域環境保全・創造研究費積立金造成事業）

臨海部は、古くから生産活動の用に供するために、海面の埋立が様々に進められてきた。この埋立により、水質の悪化、生物の生息環境等の生態系の変化、自然景観の変化、海とのふれあいの場・漁場減少等多岐にわたる環境変化をもたらすこととなった。

現在、環境の保全に対して、当初の水質改善等、公害対策中心のものから生物多様性の確保、健全な水循環の回復、リサイクルの推進、豊かな自然とのふれあいの場の確保など、環境創造を目指したものに变化してきた。そのため、臨海部でも 21 世紀に向けて、次世代に引き継ぐ良好な環境の回復・創造が強く望まれている。

そのため、このような観点から閉鎖性海域における環境回復・創造方策について、神戸大学内海域機能教育研究センターと臨海部における環境回復・創造方策の最新情報収集に努めるとともにケーススタディーとして「海藻類の増養殖と藻体取り上げによる水質改善と生物多様性の回復」実験をモデル海域において実施した。実施した主な内容は次のとおり。

採苗・種苗生産（現地において育成する海藻類の付いた種糸・ネットなどの作成）

a 自然下での採苗

b 室内培養による種苗生産

c 養殖種苗

実験海域における育成と取り上げ

エ 環境技術開発等推進事業（実用化研究開発課題）- 尼崎湾域における環境修復創造のための実証実験 - （環境省総合環境政策局助成事業）

閉鎖性海域では、陸域からの過大な負荷等に起因する物質循環の「歪み」が生じ、過剰な栄養塩や有機性汚泥が「負の遺産」として蓄積されている。沿岸域において環境修復を進めるに当たっては、これらの遺産を解消するとともに、沿岸域における物質循環の歪みを修復することが不可欠となっている。

そのため、センターでは環境省が公募した環境技術開発等推進費[実用化研究課題]に、産官学共同のプロジェクトとして「閉鎖性海域における最適環境修復技術のパッケージ化」を応募したところ、申請のあった 191 課題のなかから当該課題が採択された。平成 13 年度は次の事業を実施した。

- 委員 中村 由行 独立行政法人港湾空港技術研究所海洋・水工部沿岸生態研究室長
- 委員 村上 和男 独立行政法人産業技術総合研究所中国センター物理環境修復創造研究グループ長

b プロジェクト推進委員会の開催

・プロジェクト推進準備委員会

開催年月日 平成13年7月17日(火)

開催場所 神戸市 兵庫県民会館

- 検討内容
- ・採択までの経過について
 - ・プロジェクトの内容等について
 - プロジェクトの概要について
 - プロジェクトの全体フレームと分担体制
 - プロジェクトの内容(各研究開発者からの提案)
 - ・今後の進め方について
 - プロジェクトの進め方と委員会の設置
 - 今後スケジュールについて
 - プロジェクト推進上の課題
 - その他

・第1回プロジェクト推進委員会

開催年月日 平成13年8月29日(金)

開催場所 尼崎市 尼崎サチ・イクハ-ションセンター会議室

- 検討内容
- ・全体計画の検討
 - ・尼崎臨海部の現状と課題
 - ・回復・創造の方向性と回復目標の設定
 - ・ケーススタディの進め方

・第2回プロジェクト推進委員会

開催年月日 平成13年12月10日(月)

開催場所 神戸市中央区 国際健康開発センター

- 検討内容
- ・プロジェクトにおける各ワーキング・グループの進捗状況について(各WG代表者)
 - 実験プランの作業進捗について
 - 境修復技術の実証試験内容について
 - ・実証試験に関する予算の考え方について(事務局)
 - ・実証試験に関する総合検討について(研究代表者より)
 - 現在の進捗状況を踏まえた今年度事業の進め方について
 - パッケージ化に向けた今年度の成果の取り纏めとその進め方について
 - 来年度事業の考え方とスケジュールについて
 - ・その他

- ・第3回プロジェクト推進委員会
開催年月日 平成14年2月15日(金)
開催場所 尼崎市 尼崎サチ・イキュバ[®]-ジョンセンター会議室
検討内容 ・プロジェクトにおける各ワーキング・Grの進捗状況について
・報告書の構成と分担(案)について
・平成14年度調査検討(案)について
・その他

- ・第4回プロジェクト推進委員会
開催年月日 平成14年3月20日(水)
開催場所 尼崎市 尼崎サチ・イキュバ[®]-ジョンセンター会議室
検討内容 ・全体進捗状況について
・報告書(案)について
・平成14年度調査検討(案)について
・その他

尼崎21世紀の森構想

尼崎海域における実践環境教育プログラム

オ 油処理剤等環境影響に関する調査 (環境省地球環境局委託事業)

現在、「海洋汚染防止及び海上災害の防止に関する法律」における油及び有害液体物質による海洋の汚染の防止のために使用される薬剤の基準については、国土交通省令・環境省令により急性毒性等に関する基準が設けられており、この基準に合致した約70種類の油処理剤並びに油ゲル化剤について型式認定が行われている。大規模な油流出事故等においては、迅速な回収処理作業が被害の拡大を阻止する上で重要となり、油処理剤が大きな役割を果たすことが想定されるが、環境への影響に関する知見が十分でない。

そのため、平成12年度の検討調査を継続して、平成13年度においても油等の流出事故等に適切に対応するための学識経験者等による「平成13年度油処理剤等環境影響に関する調査検討会委員会」を設置し、既存の油処理剤及び油ゲル化剤の海洋環境への影響について国内外の知見を収集するとともに、油処理剤の生態毒性試験及び油処理剤に関するアンケートを地方自治体、関係事業者、NGO等に実施する等の調査・検討を行い、結果を報告書にとりまとめた。

調査検討会

a 調査検討会委員

座長	岡田	光正	広島大学工学部環境基礎学講座教授
委員	黒崎	一己	海上保安試験研究センター化学分析課鑑定官
委員	小倉	秀	海上災害防止センター調査研究室長兼防災訓練所次長
委員	越川	篤志	石油連盟油濁対策部次長
委員	小松	輝久	東京大学海洋研究所助教授
委員	小山	次朗	瀬戸内海区水産研究所水質化学研究室長
委員	牧	秀明	国立環境研究所水圏環境部研究員
委員	若林	明子	東京都環境科学研究所基盤部長

オブザーバ

国土交通省総合政策局環境・海洋課海洋室
国土交通省海事局検査測度課
海上保安庁警部救難部海上防災課
水産庁資源生産推進部漁場資源課
油処理剤懇話会
油ゲル化剤懇話会

b 調査検討会の開催

・第1回調査検討会

開催年月日 平成13年9月19日(水)

開催場所 東京都 法曹会館

検討内容 ・検討会の構成と座長の選出について

・検討の進め方について

・アンケートの進め方について

・生態毒性試験について

・油処理剤等の環境影響に関する情報及び文献収集に収集について

・その他

・第2回調査検討会

開催年月日 平成13年12月3日(月)

開催場所 東京都 法曹会館

検討内容 ・生態毒性試験(案)について

・アンケート(案)について

・その他

・第3回調査検討会

開催年月日 平成13年3月13日(水)

開催場所 東京都 サンケイ会館

検討内容 ・生態毒性試験結果について

・アンケート調査結果について

・平成13年度油処理剤等環境影響に関する調査報告書(案)について

・その他

カ 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の開催

1990年に第1回世界閉鎖性海域環境保全会議の開催から11年目にあたり21世紀という新しい世紀の初の世界閉鎖性海域環境保全会議となる第5回世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECS2001)が平成13年11月に神戸・淡路で開催された。

国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む多くの諸機関、研究者、NGO、政策担当者の参加を得て、自然科学だけでなく社会科学も含むあらゆる科学の英知を結集し「自然や生態系と人間社会の調和ある持続的発展」を目指した意義ある会議にするため、センターでは関係機関、関係有識者の協力を得て共催者である環境省、兵庫県、神戸市とともに「第5回世界閉鎖性海域環境保全会議実行委員会」事務局

への人員の派遣、事務所の提供、負担金の支出などを行いつつ開催に向けた諸準備を主導的に行った。

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の結果については次のとおり。

なお、実行委員会解散後は、論文集の発行など残された課題をセンターで引き継ぐこととなった。

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS2001）の結果について

1 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS 2001）は、2001年11月19日～22日、神戸市・淡路において、環境省・兵庫県・神戸市・財団法人国際エメックスセンターにより開催された。会議には、国内・海外から41ヶ国から延べ2000（参加登録数1,100）を越える参加者が参加した。

2 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議は、会長を近藤次郎（（財）国際科学技術財団理事長）が、委員長を井戸敏三（兵庫県知事）が、運営委員長を熊本信夫（北海学園大学学長）が務め、以下の趣旨のもとに会議を進められた。

（趣旨）

21世紀初頭に再び神戸の地で開催する「第5回世界閉鎖性海域環境保全会議」では、「21世紀の人と自然の共生のための沿岸域管理に向けて」をメインテーマに、これまでのエメックス活動を総括し、検証するとともに20世紀において解決できなかった閉鎖性海域が直面する次のような様々な課題のあり方について、科学者、行政担当者、企業関係者、市民、NGO等が意見交換をした。

- （1）閉鎖性海域の環境修復・創造
- （2）科学者、行政担当者、企業関係者、市民、NGOの参加と連携
- （3）情報技術の発展を社会的背景として新たな活動の構築
- （4）陸域と海域のガバナンス
- （5）21世紀を担う子供たちに向けた環境教育

また、新たなネットワークと地域、世代、組織を越えたパートナーシップの形成のもとに閉鎖性海域毎の地理的、自然的、社会経済的な条件を考慮しつつ、環境・修復・創造の観点から生活、産業等を含む人間と自然との共生の場として一体的、総合的に保全していくため、第5回エメックス会議を、新しい世紀における世界の閉鎖性海域環境保全活動のための具体的な方策を提言する「新たな出発点」とした。

3 会議では、まず開会式が行われ、秋篠宮、同妃両殿下のご臨席のもと、近藤次郎実行委員会会長の開会挨拶、川口順子環境大臣の主催者挨拶の後、ヨーカ・ウォーラーハンター経済協力開発機構（OECD）環境局長による基調講演、安藤忠雄東京大学教授（建築家）、貝原俊民（財）兵庫地域政策研究機構理事長（前兵庫県知事）の特別講演が行われた。2日目より分科会、特別セッションが設定され、閉鎖性海域における国内外の様々な問題を取り上げられ、参加者による熱心な議論が進められた。

（1）分科会

第1テーマ 「沿岸域におけるモニタリングと環境情報の果たす役割」

- 第2テーマ 「陸域と海域の相互作用と理解」
- 第3テーマ 「沿岸域の環境修復・創造と都市再生に向けた取り組み」
- 第4テーマ 「沿岸域の環境保全と環境教育・実践活動」
- 第5テーマ 「沿岸域環境管理における参加と連携」

有明海セッション

海洋流出油の環境影響と対策セッション

(2) 特別セッション

アジアフォーラム

「アジア閉鎖性海域の現状と求められるアセスメントの実現に向けて」

NGOフォーラム

「沿岸域を守るNGOと行政と研究者のパートナーシップのこれから

- 瀬戸内海と世界の海を守るNGO活動を通じて考える - 」

瀬戸内海セッション

「21世紀の新たな瀬戸内海の環境保全・修復・創造

- 瀬戸内海で何が行われ、何が行われなかったか、今後何をすべきか

- 」

総括の全体会議

(3) ポスターセッション

11月20日～21日の二日間にわたって行われ、ベストポスター賞が選ばれ、閉会式で表彰された。

エメックス会議実行委員会ベストポスター選考委員会（委員長：松田 治 広島大学教授）は、11月22日（木）、淡路夢舞台にて開催されたEMECS 2001 会議閉会式において賞を決定し、近藤次郎 同会議実行委員長より授賞。受賞者は次のとおり

ベストポスター賞グランプリ

・齋 藤 のどか 香川大学農学部

受賞作：2 - 141

The Temporal Variations of Sedimentary Pigments in the Tidal Flat (the Seto Inland Sea);
The Influence of Physical Parameters on Growth Rates Microphytobenthos

ベストポスター賞準グランプリ

・川 井 浩 史 神戸大学内海域機能教育研究センター

受賞作：1 - 269

Characterization and Long-Term Monitoring of a Coastal Environment by Assessment of the
Macro-Algal Flora

・ドーハム・モハメッド・モーサ（エジプト） アレキサンドリア大学理学部海洋学科

受賞作：1 - 344

Eutrophication Problem in the Western Harbour of Alexandria, Egypt

努力賞

・小 倉 久 子 千葉県環境研究センター

受賞作：2 - 278

・久 保 裕 志 愛知県半田土木事務所

受賞作：4 - 175

奨励賞

- ・矢野 丘 神戸市建設局下水道河川部計画課
受賞作：2 - 338
- ・ミシュラ・ブラバカー（インド） 東京大学海洋研究所
受賞作：5 - 047

4 11月18日～19日に当会議のサイドプログラムとして神戸国際展示場で海洋環境の保全技術を展示した「環境修復・創造エキスポ」とNGOの取り組み、実践的な環境教育、環境教育教示などを展示した「環境教育フェア」が開催され、一般市民、小中学生、親子連れなど多くの参加者があった。

- 5 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議では、会議の成果を広く伝え、今後の活動を持続的に発展させていくため、最終日の閉会式において別紙の「神戸・淡路宣言」をとりまとめた。

当宣言文は、5人の委員で構成された「神戸・淡路宣言起草委員会」で起草された草案を参加者に配布し、参加者からのパブリックコメントを求め、提出された意見に配慮しつつ「宣言」をとりまとめたものである。

-
- キ 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議資料等作成事業（環境省水環境部委託事業）
第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の開催に向けて、閉鎖性海域の環境保全に対する各国の取り組みを収集するとともに、紹介すべき各国の事例及び各国と連携して取り組むべき優先課題についての検討を行い、会議資料としてとりまとめる一方、我が国の閉鎖性海域の環境保全の現状と対策を紹介するため、第1章 日本の概況 / 第2章 日本の環境行政 / 第3章 水環境保全の取組 / 第4章 財団法人国際エメックスセンターの活動 / 第5章 関連団体リンク集などを内容とするCD-ROM（和英）を作成し、第5回世界閉鎖性海域環境保全会議参加者等に配布した。
- ク 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議関係資料等作成事業（日本財団助成事業）
第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の開催にかかる第3回アナウンスメント、ポスター、広報パンフレット、会議プログラム等を作成し、会議の成功に向けた広報、参加者に対する会議内容の周知徹底等に努めた。
- ・助成により作成した刊行物・報告書等
 - 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議第2回アナウンスメント
 - 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議第3回アナウンスメント（プログラム）
 - 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議発表要旨集
 - 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議広報用リーフレット
 - 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議会議報告書
- ケ 閉鎖性海域環境保全活動支援事業
閉鎖性海域の環境保全と適正利用を目的とする学術的な会議等に対して、助成を行い、他の関連機関との関係を築くとともに、会議等の成果をセンターの活動に反映させた。

・平成13年度に助成した事業

- a 対象団体名：瀬戸内海研究会議（社団法人瀬戸内海環境保全協会、瀬戸内海環境保全知事・市長会議共同企画）
- b 対象事業名：瀬戸内海セッション（第5回世界閉鎖性海域環境保全会議の特別セッション）
- c 開催年月日：平成13年11月22日
- d 開催場所：淡路夢舞台国際会議場
- e テーマ：21世紀の新たな瀬戸内海の環境保全・修復・創造 - 瀬戸内海で何が行われ、何が行われなかったか、今後何をすべきか -
- f 出席者：
 - コーディネータ 櫻井正昭 瀬戸内海環境保全協会顧問（自然公園美化管理財団専務理事）
 - ラポーター 柳 哲雄 瀬戸内海研究会議企画委員長（九州大学応用力学研究所教授）
 - パネリスト 井上正治 北九州市環境局環境保全部長
金子信義 山口県漁業協同組合連合会専務理事
岡市友利 瀬戸内海研究会議会長（香川大学名誉教授）
白幡洋三郎 国際日本文化研究センター教授
阿部悦子 環瀬戸内海会議代表（愛媛県議会議員）
薦田直紀 広島県環境保健協会 地域活動支援センター長
平山孝信 関西電力（株）環境技術グループ・チーフマネージャ-部長
柴垣泰介 環境省環境管理局水環境部閉鎖性海域対策室長
尾崎正明 国土交通省近畿地方整備局建設部都市調整官
福田幸司 国土交通省近畿地方整備局港湾空港部長
ジェーン・ニシダ メリーランド州環境省長官

コ エメックス国際セミナー「海域の環境保全に向けた欧米における環境教育」を開催

「海域の環境保全に向けた欧米における環境教育」をテーマに、国際的な環境法の法学者や北海・バルト海で活躍されている科学者が参加したエメックス国際セミナーを第5回世界閉鎖性海域環境保全会議のプレセッションとして開催した。セミナーではそれぞれの分野、地域における「環境学習」に関する最新情報について紹介が行われ、総合討論では、これら講演者に加え、米国チエサピーク湾で活躍している科学者も参加し、会場参加者との対話を通じて、今後の環境教育の取組みについて活発な意見交換がなされた。

- a 開催日時：平成13年6月15日（金）
- b 場所：神戸市中央区 国際健康開発センター交流ホール
- c 内容：
 - コ-ディネーター 津野 洋 京都大学環境質制御研究センター教授
 - プログラム ・基調講演 「国際法と環境教育」
トーマス・ショエンバーム(米国・ジョージア大学教授)
 - ・報告1 「北海地域における環境教育の将来：ネットワーク化とコミュニティ参加に向けて」

- ジャンポール・デュクロトワ（英国・ハル大学教授）
- ・報告2 「バルト海地域における生態系保護と環境教育」
 - ベン・ヤンソン（スウェーデン・ストックホルム大学名誉教授）
 - ・総合討論

（２）情報収集整備活用事業

ア 閉鎖性海域環境情報システムの構築（環境省水環境部委託事業）

閉鎖性海域の環境保全に関し、主導的役割を果たしてきた我が国が、関係各国と連携をとりつつ閉鎖性海域の環境情報に係る国際的な情報ネットワークを構築し、閉鎖性海域に関する各研究分野の研究成果、水質等の環境データ、社会経済データ等の情報のデータベースを整備し、インターネットを通じて、研究者、行政関係者等が活用できるシステムの構築を図るため、「平成13年度閉鎖性海域環境情報システム構築検討会」を設置してそのシステムのあり方、推進方策について検討を行った。

調査検討会

a 検討会委員

座長	三村 信男	茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター教授
委員	高山 進	三重大学生物資源学部教授
委員	名執 芳博	財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)研究所上席研究員
委員	谷津龍太郎	アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センター長
委員	柳 哲雄	九州大学応用力学研究所教授
委員	ウェイン・ベル	ワシントン大学社会環境研究所所長
委員	ジャンポール・デュクロトワ	ハル大学欧州沿岸問題研究所長・教授

b 調査検討会の開催

・第1回調査委員会

開催年月日	平成14年1月21日（月）
開催場所	東京都港区新橋 航空会館
検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の構成と座長の選出 ・事業の目的及び背景 ・閉鎖性海域環境情報システム構築と推進方策について全体計画 ・閉鎖性海域に関する環境情報の現況把握について ・その他

・第2回調査委員会

開催年月日 平成14年2月25日(月)

開催場所 東京都港区新橋 航空会館

検討内容 ・第1回委員会の結果について

・平成13年度閉鎖性海域環境情報システム構築検討報告書
(案)について

・その他

イ 「日本の閉鎖性海域(88海域)環境ガイドブック」を発行 (総務省-寄附金付年賀はがきの寄附金-助成事業)

自然の営みと人の営みが融合した、持続的発展が可能な日本の閉鎖性海域を創造し、自然環境が美しく持続可能な状態で保たれた閉鎖性海域を目指して、全国の住民、NGO、研究者(環境サイドだけではなく開発サイドも含めた)、地方公共団体、事業者等様々な主体が活用でき、閉鎖性海域の環境保全と創造に資することができる「日本の閉鎖性海域(88海域)環境ガイドブック」を発行した。

第5回世界閉鎖性海域環境保全会議参加者に配布するとともに、関係府県・市町、一般希望者に配布した。

a 掲載内容 閉鎖性海域の富栄養化対策と88海域の指定/諸元の説明/
日本の閉鎖性海域(88海域)の各環境情報

b 体裁 A4版 177ページ

c 発行部数 1500部

ウ エメックスニュースレターの発行

閉鎖性海域に関する情報交換を促進するため、投稿論文、第5回エメックス会議の準備状況、会議開催結果、閉鎖性海域環境保全団体の紹介、関連国際会議開催情報等を掲載した機関紙「エメックスニュースレター」を発行した。

また、電子メールによる配信を試行した。

第18号

a 財団法人国際エメックスセンター平成13年度事業

b 沿岸海洋生態系の保護と管理に関する国際シンポジウム

c 沿岸域・河口域・水路管理協同研究センター

d 環境危機を解決する国際環境裁判所の必要性

e 欧州連合レオナルド・ダ・ヴィンチプログラム環境教育ワークショップ

f 財団法人国際エメックスセンターの活動(1~4月)

g 第5回エメックス会議に向けて(1~4月)

h 事務局からのお知らせ

第19号

a 第5回エメックス会議

b Forum per de laguna活動紹介

- 難しい選択を迫られているベニス・ラグーン

c 第1回会議・第6回CERICI会議

- 沿岸域の変化:化学物質のプロセスと流動

d PAP-優先行動計画/地域活動センター-活動紹介

e 財団法人国際エメックスセンター-活動について(5-8月)

- f EMECS2001実行委員会活動について（5-8月）
- g 事務局からのお知らせ

第20号

- a EMECS2001プログラムの概要.
- b スtockホルム世界水週間.
- c セマングム干潟を救え!
- d 会議情報沿岸域カナダ2002五大湖.
- e 事務局からのお知らせ

エ 情報収集・提供システムの整備・運営

世界の閉鎖性海域の環境の保全と適正な利用に関する情報を収集、加工するとともに、インターネットを通じて情報の提供・交流を行うシステムの運用、管理の充実を図った。

平成13年度は、主に次のような情報について充実を図った。

- a セミナー、シンポジウム結果報告書のデータベース化
- b ニュースレターのデータベース化
- c 国内外の海洋・沿岸研究ペ - ジへのリンク先の拡充
- d 第5回世界閉鎖性海域環境保全会議準備情報
- e 日本の閉鎖性海域に関する情報
- f 当センターの活動情報
- g 国における海域・水質関係情報

オ その他刊行物の発行

平成12年12月12日及び13日の2日間、タイ王国バンコク市内のサイアム・シティ・ホテルで国連環境計画、タイ海洋政策及び回復に関する委員会等と共同で開催した沿岸海洋生態系の保護と管理に関する国際シンポジウムの報告書

- a 掲載内容 カラー写真 / 開催結果の概要 / プログラム / 開会式あいさつ / 基調講演 / 分科会発表報告の概要 / パネル討論 / 閉会式 / 参考資料
- b 発行部数 500部

5回閉鎖性海域環境保全会議（EMECS2001）において特別セッションとして開催されたアジアフォーラムの報告書

- a 掲載内容 EXECUTIVE SUMMARY / INTRODUCTION / PROGRAMME / PRESENTATIONS / PANEL DISCUSSION / CLOSING REMARKS
- b 発行部数 500部

5回閉鎖性海域環境保全会議（EMECS2001）において特別セッションとして開催されたNGOフォーラムの報告書

- a 掲載内容 NGO提言 / プログラム / プレミーティング議事要旨 / 発表要旨 / フォーラム議事録 / 会場内提出コメント / フォローアップミーティングの記録 / NGOフォーラムの概要 / 各報告者からの会議後の報告 / コーディネーター総括
- b 発行部数 500部

カ 「誰でも参加 - 海のネット会議」の管理・運用

平成12年度に環境事業団地球環境基金の助成を受けて構築した「誰でも参加 - 海のネット会議」の運用管理を行った。

当ネット会議は現在、(財)国際エメックスセンターが有する既存のホームページを活用し、閉鎖性海域の環境保全・創造のため、提案されたトピック(テーマ)に関し、情報・意見を有する市民、NGO、研究者、政策担当者など誰もが参加でき、直接に意見交換、情報交換を可能にするためのもので、多様なセクターの関係者(誰でも)がある特定のトピックに関し、ホームページ上で討議(意見の書き込み、情報の掲示)が可能で、今後の海の環境保全・創造の取り組みについてネット上で意見交換がなされた。

キ 地域担当者によるエメックス活動の推進

国際的な調査・研究事業の推進に向けて人的ネットワーク構築のため、過去にエメックス会議を開催した地域等に地域担当者を置き

- a 地域の専門家のネットワークの形成と維持
- b 環境の現況・環境教育実施状況など地域環境情報の収集・提供
- c エメックス活動のPR

などの活動を行っている。

平成13年度は、科学・政策委員に依頼して次の活動を行った。

第1回会議・第6回CERCI会議への参加と交流

第1回会議・第6回CERCI会議は、水環境における化学物質の流入と流動及び沿岸域に対するそれらの影響に関する科学的な議論ができるプラットフォームの提供を目的としたもので、平成13年7月8日から11日にかけてイギリス・ハル大学スカボロ校で開催された。

当会議にセンター科学・政策委員であるウエイン・ベル米国ワシントン大学環境社会センター所長を派遣し、当会議参加者とのネットワークの形成を図るとともに第5回世界閉鎖性海域環境保全会議のPR及び参加を呼び掛けた。

地中海沿岸域環境に関する第5回国際会議(MEDCOAST 2001)

トルコ・アンタリヤ市で第4回エメックス会議とジョイントを行ったMEDCOASTの第5回会議が平成13年10月23日から27日にかけてチュニジア・スースで統合的な沿岸域及び海洋の資源管理と開発などをテーマに開催された。

当会議にセンター科学・政策委員長である熊本信夫北海学園大学長を派遣し、当会議参加者とエメックスとのネットワークの維持・拡充を図るとともに第5回世界閉鎖性海域環境保全会議のPR及び参加を呼び掛けた。

(3) 普及啓発・人材育成事業

ア 海洋環境体験学習セミナーの開催(日本財団助成事業)

瀬戸内海等の閉鎖性海域の中で、環境質の高い水域と劣化の著しい水域、歴史・風土性を感じることでできる水域、希少な生物の保護活動、環境保全活動の先進地を実際に訪ね、生態系工学研究会の協力を得て当地で体験学習を行った。

体験学習会では、水質の測定手法、生物観察方法、生態系の評価方法など当水域環境に適した環境評価方法も市民に指導した。

第1回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年1月26日(土)

開催場所 兵庫県明石市 兵庫県立水産試験場・兵庫ノリ研究所

テーマ 「海苔(のり)の秘密を知ろう! - ノリやワカメの養殖について学び、海の環境を考える体験学習 - 」

参加者 小・中学生、一般 約50名

コーディネーター 大阪府立大学工学部海洋システム工学科助教授 大塚耕司

第2回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年2月9日(土)

開催場所 兵庫県赤穂市 赤穂市立海洋科学館

テーマ 「塩づくりを楽しもう! - 塩田開発の歴史を学び、海の環境を考える体験学習 - 」

参加者 小・中学生、一般 約50名

コーディネーター 徳島大学大学院工学研究科エコシステム工学専攻助教授
上月康則

第3回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年3月26日(火)

開催場所 広島県呉市 独立行政法人産業技術総合研究所中国センター

テーマ 「瀬戸内海ってどんな海だろう! - 瀬戸内海について学び、海の環境を考える体験学習 - 」

参加者 小・中学生、一般 約60名

コーディネーター 大阪市立大学講師 重松孝昌

第4回海洋環境体験学習セミナー

開催年月日 平成14年3月30日(土)

開催場所 大阪府大阪市 海遊館

テーマ 「水族館の秘密を知ろう! - 水族館の管理技術を学び、海の環境を考える体験学習」

参加者 小・中学生、一般 約50名

コーディネーター 大阪府立大学工学部海洋システム工学科助教授 大塚耕司

イ 閉鎖性海域の環境管理技術研修 (国際協力事業団(JICA)委託事業)

我が国の閉鎖性海域の環境保全施策実施の経験を基に、開発途上国の中堅行政官を対象とした「閉鎖性海域管理技術研修」を実施した。

研修の目的

閉鎖性海域及び沿岸域の環境管理に従事する開発途上国の中堅行政担当官等が環境管理計画の策定、規制の手法、排水処理等の技術等の総合的な環境管理技術を取得し、自国において将来活用することを目的とした。

研修期間

平成13年9月10日から11月24日まで(ただし、最初の3週間は日本語研修等)

研修リ・ダ

京都大学工学研究科附属環境質制御研究センター 津野 洋教授

研修生

本年度は、ブラジル、エルサルバドル、サウディ・アラビア、フィリピン、タイ、トルコ、マーシャル諸島の7カ国、計7名で、特に半数が女性という構成の研修生を迎えた。

主な研修場所

兵庫インターナショナルセンター(HIC) (神戸市須磨区一の谷)

研修の内容

a 講義

環境管理、水質、廃棄物に係る基礎理論の講義

b 実習

排水処理・分析技術等の実習

c 現地見学

環境に関する研究所や漁業関係施設、排水処理施設、環境教育現場等の見学

研修生一覧

	氏名	国名	性	年齢	所属・職名
1	マリルー・アンジェラ・カンパニール・メイ	ブラジル	女性	41歳	サツカ・カクシ連邦大学講師
2	ファン・アーナルフォ・ルイスソート	エルサルバドル	男性	31歳	民間団体CODECA, 環境保護計画担当
3	オサマ・アブデュラジズ・ナイタ	サウディ・アラビア	男性	29歳	都市農村省農業技師
4	ジュリアン・アリク	マーシャル諸島	男性	39歳	官民団体BMIEPA, 環境教育及び情報担当事務官
5	ロザリнда・ブエナベンテュラ・コルテス	フィリピン	女性	41歳	環境及び天然資源局上席研究専門職
6	チャチャイ・スィルプントーン	タイ	男性	31歳	科学技術環境省環境政策及び計画局環境事務官
7	ニハル・イルマズ	トルコ	女性	26歳	中東工科大学沿岸及び港湾実験所、土木工学、研究助手

ウ 平成13年度国際協力事業団国民参加型専門家派遣事業(国際協力事業団-アジア一部インドシナ課-共同事業)

タイ政府より国際協力事業団を通じて要望のあった海面上昇やそれによる沿岸浸食に関する専門家について、当センター科学・政策委員である茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター三村信男教授の推薦を受けて2名の専門家をタイに派遣し現地指導にあたった。

派遣の背景

1995年のIPCC報告書では、政策決定者が危険水準を定義する役割を持つことや科学者が政策決定に向けた科学的・技術的な基礎を提供するという役割をもっていることが述べられている。残念なことに、この作業はまだおこなわれていない。そこで、海面上昇の解析と沿岸浸食への影響に関する作業を進めることが重要となっている。適応するための戦略や活動に向けた対策が沿岸における将来の開発プロジェクトにおいて必要となっている。

激しい沿岸浸食がチャオ・プラヤ河口の西岸やペチャブuri県、北タイ湾のプラチュアプ・キリカン県のファフィンで見ついている。いくつかの対策、特に工学的構造物が問題解決のため採用された。この解決方法は、いくつかの地域で効果的であると判明したが、いくつかの地域では無駄に終わってしまった。

しかしながら、可能性のある海面上昇の影響は考慮されていない。日本からの専門的技術や経験はこの状況を効果的に管理するために非常に有用であると考えられた。

派遣の目的

- a 海面上昇やそれによる沿岸浸食と気候変動への影響に関する科学的・技術的判断支援のための知見を得ることによる環境政策企画室(OEPP)のスタッフ能力の向上
- b 海面上昇やそれによる沿岸浸食と気候変動への影響に関する政策、対策及び管理に関する考え方や意見の交換及び討議
- c 海面上昇やそれによる沿岸浸食と気候変動への影響のための国家計画への明確な記述にむけたガイドラインに関する適切な資料の収集

派遣先

タイ国科学技術環境省環境政策企画課

派遣期間

平成13年12月6日から平成13年12月20日まで

派遣した専門家

齊藤 文紀（独立行政法人産業技術総合研究所海洋資源環境研究部門沿岸環境保全研究グループ長）

大久保泰邦（独立行政法人産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門主任研究員）

エ 第3回こどもエコクラブアジア太平洋会議におけるパネル展示

我が国を含むアジア太平洋地域の8か国の子どもたちが参加した環境省、兵庫県、西宮市、（財）イオングループ環境財団、（財）総合教育研究財団主催の「第3回こどもエコクラブアジア太平洋会議」が開催され、当センターではこの催しに協力する趣旨で、8月30日、「海の環境を守ろう」をテーマにしたパネル展示を行い、参加した子供たちに見て頂いた。

- a 開催年月日 平成13年8月28日（火）～30日（木）
- b 開催場所 西宮市民会館（兵庫県西宮市六湛寺町10-3）

オ 環境修復創造エキスポへの出展

21世紀の沿岸海域における様々な環境修復・創造の取り組みについての情報交換や人的交流、技術移転のきっかけづくりの場として第5回世界閉鎖性海域環境保全会議に併せて開催された「環境修復・創造エキスポ」に主催者として出展した。

- a 開催年月日 平成13年11月18日（日）～19日（月） 2日間
- b 開催場所 神戸国際展示場 1号館 1階

カ 第10回西日本国際環境協力機関連絡会会合の開催

西日本に所在する国際環境協力機関の連絡会を平成13年度、当センターが当番機関となって開催し、相互の意見交換、情報交流を行った。

- a 開催年月日 平成14年3月11日(月)
- b 開催場所 神戸市中央区
- c 国際協力事業団兵庫国際センター セミナールーム
- d 議題
- ・ 財団法人地球環境戦略研究機関関西研究センターのオブザーバー参加について
 - ・ 各機関の2001年度及び2002年度の事業紹介
 - ・ 意見交換
- e 参加機関
- ・ ワ - キングメンバ -
 - 財団法人国際環境技術移転研究センター
 - 財団法人国際湖沼環境委員会
 - 財団法人地球環境センター
 - 財団法人北九州国際技術協力協会KITA環境協力センター
 - 財団法人国際エメックスセンター
 - 財団法人環日本海環境協力センター
 - ・ オブザーバーメンバー
 - アジア太平洋地球変動研究ネットワークセンター
 - 財団法人海外技術者研修協会関西研修センター
 - 国際協力銀行大阪支店
 - 国際協力事業団兵庫国際センター
 - 国際協力事業団中部国際センター
 - 国際協力事業団大阪国際センター
 - 財団法人地球環境産業技術研究機構
 - 国際連合地域開発センター
 - 国連環境計画 技術・産業・経済局 国際環境技術センター